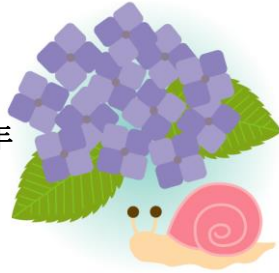


## 今月の断酒表彰

☆ Y・Sさん 吹田支部 断酒五年

断酒表彰おめでとうございます。

ますますのご活躍を期待いたします。



平成 29 年 6 月 1 日発行 No.172

編集・発行 事務局・広報部

<http://suitashi-danshukai.net>

## 断酒に思う (78)

### 会長就任挨拶

吹田市断酒会 辻本 武



平成 10 年 4 月 吹田支部入会 辻本武です。

平成 29 年 5 月 13 日の吹田市断酒会総会において、輪番により会長に任命されました。

平成 23 年に一度会長に任命されましたが、平成 24 年に突然東北へ転勤となり業務遂行の継続が出来なくなり、土肥会長に会長再任のお願いをした経緯があります。

今回は、昨年退職となりましたので、前回のようなことはありませんが、なにぶん、自分の断酒がメインの会員です、前、前々会長の様にはできないかとは思いますが。

目標として、いままで通り周辺朋友の記念例会、研修会等への積極的参加は継続、吹田市断酒会の行事、業務も引き続き会員全員参加で継続実施する。

吹田市断酒会として、会員・家族が断酒継続でき、幸せな生活が継続できるように、又、現在酒害で苦しんでいる人を少しでも手助けできるような活動を行っていきたく思いますので、吹田市断酒会の会員、家族一致協力のほど宜しくお願いいたします。

・・・平成 10 年 1 月 5 日、年末年始の連続飲酒が原因で、初出の日の式典の席を早退、その晩から自宅で幻聴、幻覚が出始め、6 日の日に高槻赤十字病院への受診、精神科担当が不在の為、新阿武山病院へ移動、診察から入院、観察室の中での大離脱症状(振戦せん妄)により拘束帯でベットに固定をされても暴れまわる・・・こんな筈ではなかった、大酒飲みの自覚はあったが、仕事も、家庭も通常にこなしている普通のサラリーマンだと思っていたのに、自分が自分で無くなっている・・・。

もう二度と飲んではいけないとの自覚はできたが、やめ続ける手段も、自信もあるわけもなく、3 カ月弱で退院となってそのまま、復職、会社、上司は入院前の状態に完全に戻ったと考えたのであろうか？ 断酒会に出席し続けたお蔭で何とか断酒を継続でき、勤務も継続できたこと、今、本心から感謝するしかない。

建設業界、今思えば飲酒に対して規律も甘く、飲み会でいくら乱れようとも、次の日、勤務を休むことがなければ、おおめに見られていたように思う、大酒のみで実際どれほどの戦力になっていたか、今思えば申し訳ないが、離脱症状がでて入院するまで末期的アルコール依存症患者と

いう事実が、本人も、家族も、そして勤務先もわからない状況だった。

こんな、アルコール依存症患者も居ることも事実、色々なタイプの依存症患者がいると思うが、治療せずにたどり着く先は悲惨な末路ただ一つ、そうならないよう、先輩会員から教えを受けたように断酒例会の中で伝え続けていきたいと思えます。

## 【今月の「指針と規範」】 断酒新生指針

### 七 断酒の飲びを酒害に悩む人たちに伝える

われわれは酒の奴隷となり、どう考えても人間らしさを欠いた生活をしているのに、酒をやめる必要はないと思っていた。アルコール依存症には元来、社会に適應できない人間になるものという偏見を自分の内部に持っており、自分の酒を否定することは、自分の人格を否定することでもあった。

ところが、病気の進行と自分を取巻く状況の悪化や、自分の心の中に芽生えてきたどん底感によって、やがて、酒をやめたいと願うようになった。だがもう一方では、やめられるはずがないという考えも合わせて持っていた。

ときには酒は、自分の命よりも大切なものであったため、断酒は実現不可能なものとおきらめていた。

その不可能だと思っていたことが、断酒会にめぐり逢い、断酒例会を通しての家族の理解の深まりや愛の復活と、仲間たちとの信頼関係と暖かい援護によって、可能であることが実証された。

われわれはどん底から這い上がり、本当の自分を取り戻すことができた。断酒会は奇跡をもたらしてくれた、と感激した。久しく忘れていた充足感と飲みのうちに、中味の濃い毎日を送っている。これから解決していかねばならない問題も多くあるが、それを乗り切るだけの知恵も行動力も自分のものにしつつある。われわれの将来への展望は明るい。

断酒を可能にただけでなく、自分を愛し、家族を愛し、それを人間愛まで高めることができた。そのきっかけをつくってくれたのは、同じ酒害者である断酒会員である。彼らの誠意溢れる幸せへの情報伝達によって、現在の自分があることを考えれば、同じことを酒で悩んでいる人やその家族にしようとしていく自然に思いつくはずである。

思いついたことはすぐ実行に移そう。そして、いつ

までも続けよう。ところが、この人間愛に充ちた奉仕活動を簡単に中断する人がいる。理由は、自分なりに頑張ったが、どうしてもわかってもらえない。わたしは酒害相談に向いていないんだ、が圧倒的に多い。本当にそうだろうか。

自分の入会直前の状態を思い出してもらいたい。われわれを訪れてくれた断酒会員によっては、言うことがよくわからないことがあった。同じ酒害者であるといっても、相談を受ける側が現在の幸せな状態ばかりを説明しては、両者の断酒に対する発想に差がありすぎるので、そう簡単には理解できない。

酒害相談で一番大切なことは、自分の入会前の最悪の状態を頭の中に再現し、それをありのまま話し、どんなひどい酒害者でも断酒できるという事実を伝えることである。断酒などとてもできそうにないと考えている人を説得するには、自分が彼らからすぐ手の届くような存在でなくてはならないのである。

また、自分で磨き上げた断酒理論による説得は、相手を追いつめ、反感を買うだけである。ときには、やっと芽生えかけた断酒への意欲を潰しかねない。ほとんどしゃべらないで側に坐っていただけで、相手に断酒を決断させた人もいるのである。要は、自分にも相手にも誠実でありさえすれば洞察力が働き、相手に最適の話ができる。そして、意外にすんなりと納得してもらえることが多いのである。

(指針と規範 P41～P43)



### 吹田市断酒会会員の現況

(平成28年度府断現況調査から。  
平成29年4月1日現在)

- 1 会員数：男性24名、女性1名、計25名
- 2 入会者数（平成28年度中）：  
男性2名、女性0名 計2名
- 3 準会員数：6名
- 4 会員の年齢構成：  
40代2名、50代6名、60代8名、  
70歳以上9名
- 5 会員の断酒歴：  
1年未満4名、1年～3年2名、  
3年～5年5名、5年～10年3名、  
10年～20年8名、20年以上3名

